

坂道マラソンで地域に活気を呼ぶ住民たちの思い

児島知樹・鈴木直美・三木歩・池本有里・山本耕司（四国大学）

Keyword：徳島県勝浦町、みかんの里、さかもと坂道マラソン、映像

【問題・目的・背景】

徳島県勝浦町¹⁾の坂本地区では、一昨年から住民が主体的になって標高差 224m の坂道を駆け巡るマラソン大会²⁾を開催している。坂本地区は温州みかんを特産としており、住民のほとんどがみかん農家であるが、収穫期の時期を目前にした 11 月後半に、全国から数百人規模のランナーを迎えることに情熱を傾ける。この活動の全てを取り仕切るのが住民グループ「さかもと元気ネットワーク」であり、その多くが高齢者である。筆者らは、このメンバーたちの準備から本番までの取り組みに密着し、住民それぞれがどう考え、どう動き、全体としてどう進めているのかを調査した。その後の 11 月に行われた大会本番には、筆者らも住民と一緒にスタッフとして活動する中で、それぞれに役割を全うする住民たちの地域に対する熱い思いを確認した。

本報告は、この過疎の進む山あいの集落に起きている強い住民同士の繋がり意識が全国から人を集める取り組みに発展している状況について、大会当日からその後のまとめに至るまでを年間を通じて取材してきた一連の成果をまとめるものである。

【研究方法・研究内容】

徳島県勝浦町の最も山間部に位置する坂本地区には、過去 2 回実施してきたマラソン大会がある。坂本地区は、急傾斜の畑にみかんを栽培する農家が多いが、狭い坂道が多いため機械化が進まず、住民の高齢化とともに後継者もないことから、人口減少とともに地域の衰退が危ぶまれている。住民はそのような地域を活性化しようと、これまでも小学校の廃校舎を活用した「ふれあいの里さかもと」にてグリーンツーリズムを展開し、文化や食、自然を生かした体験イベントなどを行って、いくつもの危機を乗り越えてきた。そして、全国から学生がインターンシップに訪れるなど、元気なまちづくりを実現している。地域活性化の研究対象として取り上げられることもあるこの地域は、住民の地域を思う高い意識と繋がる力がある。それが行動を起こし、互いの協力と努力を誘発したと考えられる。それでも過疎の波を止めることはできないが、高齢化したわずかの住民たちが生き生きと地域の良さを感じながら生活する活動を継続している。そんな住民

からなる団体「さかもと元気ネットワーク」では、次の新たなる挑戦として起伏の激しい地形を利用した「さかもと坂道マラソン」の開催を思いついた。それまで課題と思っていた坂道を逆に生かし、坂道の魅力をマラソンという形でランナーに提供しようと考えたのである。初級から上級までの 4 つのコースを作り、子供から高齢者までが参加できる市民マラソンで、自治体が行うのではなく、住民が企画し住民が運営し住民がおもてなしをする。そのため、どこよりも温かい地域の良さを感じてもらえる大会に仕上げる事ができている。今年の第 2 回大会では 1 回目を優に超えるランナーが全国から集まり、みかん畑の中を駆け抜けた。そこには住民と住民、住民と参加者の間にさらに強い絆と思いやりが生まれ、喜びや感動がそれぞれの胸に刻みついた。

【研究・調査・分析結果】

筆者らは、住民団体「さかもと元気ネットワーク」がマラソン大会をどう準備し、地域にどう影響していったのかなどについて取材し、その状況を先に報告した³⁾。その後の大会本番には 21 名の学生が現地に行き、マラソンコースの主たる地点で映像を撮影した。また、さらに他の学生グループ 5 名がスタッフの動きや参加者の声を聞き、ネットで生中継を行うなど本大会全体を網羅した記録を行った。そして、それら一連の取り組みを映像にまとめて住民団体に贈呈した⁴⁾。坂本地区ではその日からお雛祭りが開催され、期間中に来訪者が自由にこの映像を観賞できるように、4K テレビで連続的に上映した。また、筆者らと住民団体との連携の全容を、同時にパネル展示して紹介した。本報告は、これらの成果について述べるものである。

【参考文献】

- 1) 勝浦町 HP、<http://www.town.katsuura.lg.jp/>
- 2) さかもと坂道マラソン、<https://saka-mara.run/>
- 3) 小林、三木、池本、山本、地域活性学会第 10 回研究大会論文集、pp.10-13, 2018.
- 4) 勝浦町 HP、<http://www.town.katsuura.lg.jp/docs/2019030200029/>